

小 / 理科 / 5年 / 生物と環境 /
植物の花と実 / 理解シート

どんな花でも、めしべからたねができるの



そうだよ。めしべは、たねをつくるためにあるのだから。
でも、おしべの花粉をもらわないと、たねはできないよ。

たねのもとは、めしべの根もとにある子ぼうの中にある

花は、植物がほろびないように、たねをつくり子孫をふやす役目をもっています。

いろいろな花をたてに切ってみると、子ぼうの中に、たねのもとらしいものが見られることがあります。マメの花やアブラナの花、ヘチマのめばななどがそうです。

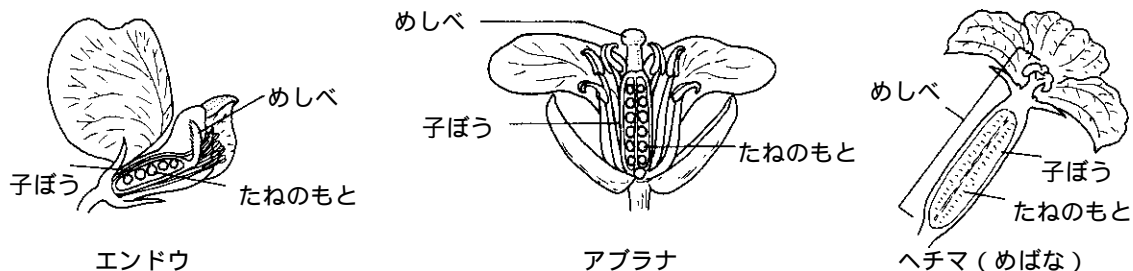
ヘチマのめしべは、めばなにあります。すぐさきそうなめばなのつぼみに、紙のふくろをかぶせ、虫が花粉を運んでこれないようにしてみましよう。すると、めばなは実にならず、かれて落ちてしまい、たねはできません。

紙のふくろをかぶせてあった、別のめばなのめしべのてっぺん(柱頭ちゅうとう)に、ふでの先でおばなの花粉をつけ(受粉じゅふん)、またふくろをかぶせておいてみましよう。日がたつと、子ぼうはふくらんできて、実になり、たねができます。

花は受粉しないと、実もたねもできないのです。

たねができない花もある

秋になると、てっぺんに花をつけたくきだけが地上に出てさくヒガンバナの花には、おしべもめしべもあります。でも、たねはできません。同じように、スイセンの花も、たねができません。これらの花は、たねができないかわりに、地下の球根がふとってふえ、球根で子孫を残していきます。



いろいろな花の子ぼうと、たねのもと